

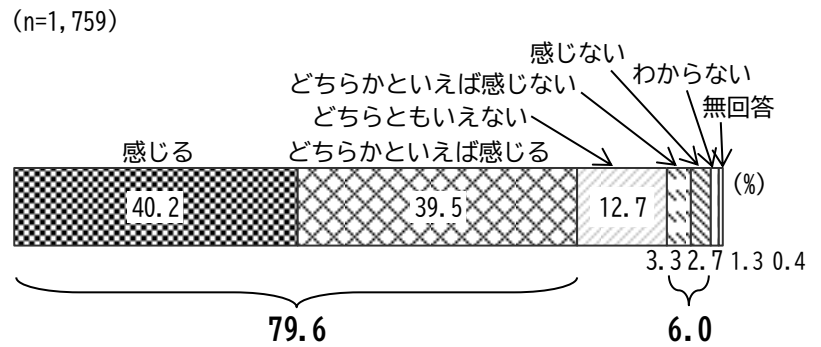
Ⅰ 県民意識調査

1 千葉県への愛着や誇りについて

(1) 千葉県への愛着や誇りの有無

千葉県への愛着や誇りの有無を聞いたところ、「感じる」(40.2%)と「どちらかといえば感じる」(39.5%)を合わせた『感じる(計)』(79.6%)が約8割となっている。

一方、「どちらかといえば感じない」(3.3%)と「感じない」(2.7%)を合わせた『感じない(計)』(6.0%)が1割以下となっている。

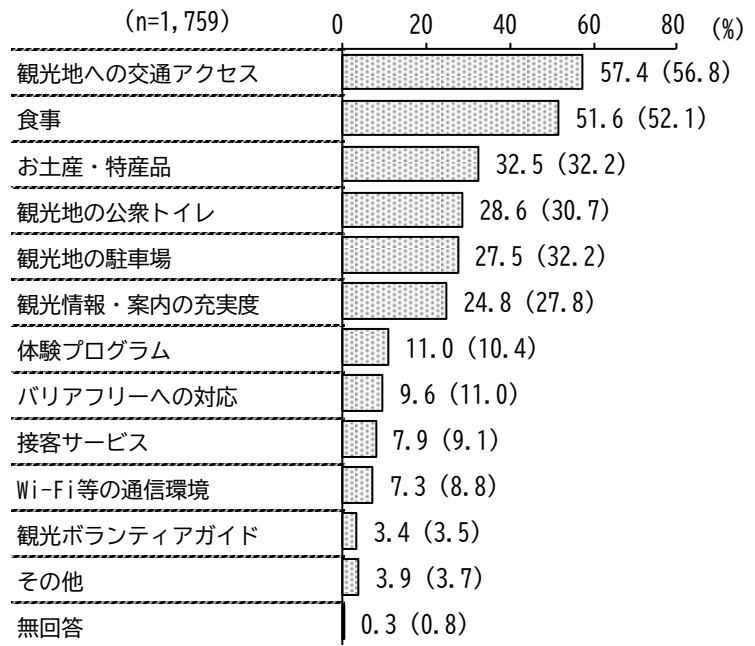


2 観光について

(1) 県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと

(複数回答:3つまで)

千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいか聞いたところ、「観光地への交通アクセス」(57.4%)が約6割で最も高く、以下、「食事」(51.6%)、「お土産・特産品」(32.5%)、「観光地の公衆トイレ」(28.6%)が続く。

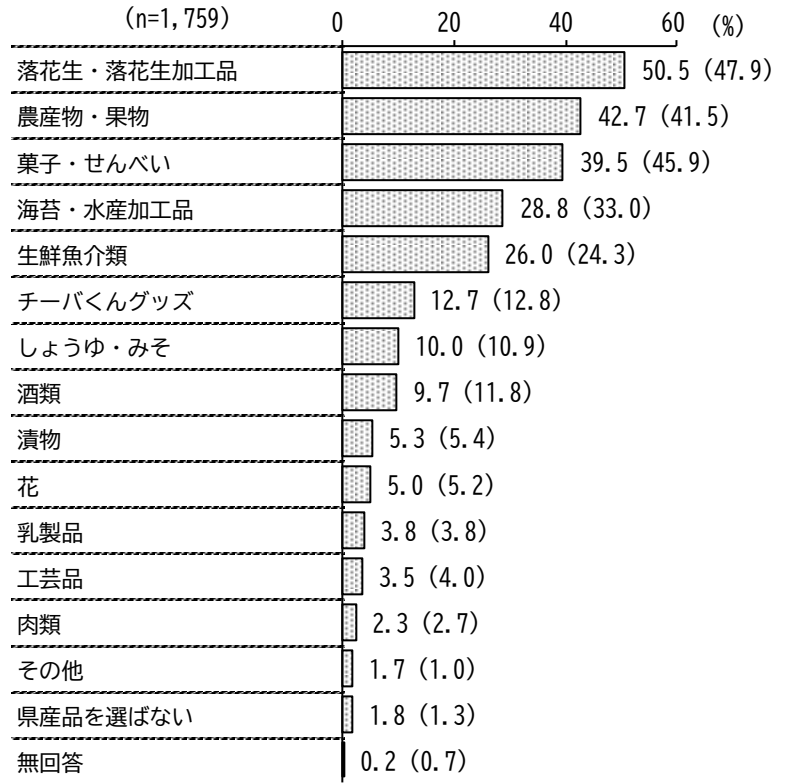


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(2)お土産や贈答品として選ぶ県産品

(複数回答:3つまで)

県産品をお土産や贈答品とする場合に何をを選ぶか聞いたところ、「落花生・落花生加工品」(50.5%)が5割で最も高く、以下、「農産物・果物」(42.7%)、「菓子・せんべい」(39.5%)、「海苔・水産加工品」(28.8%)が続く。



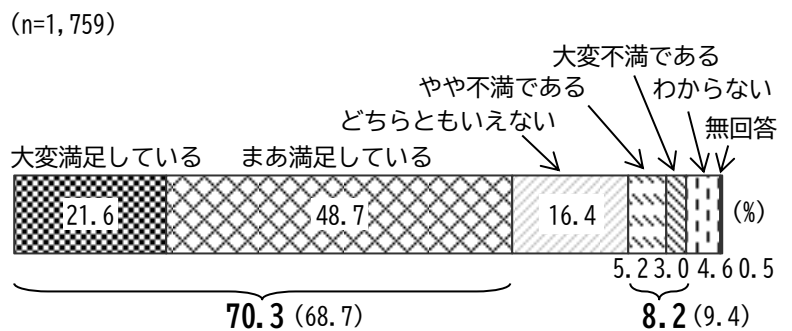
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

3 上水道の整備について

(1)上水道の整備の満足度

現在お住まいの地域の上水道の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」(21.6%)と「まあ満足している」(48.7%)を合わせた『満足している(計)』(70.3%)が7割となっている。

一方、「やや不満である」(5.2%)と「大変不満である」(3.0%)を合わせた『不満である(計)』(8.2%)が約1割となっている。

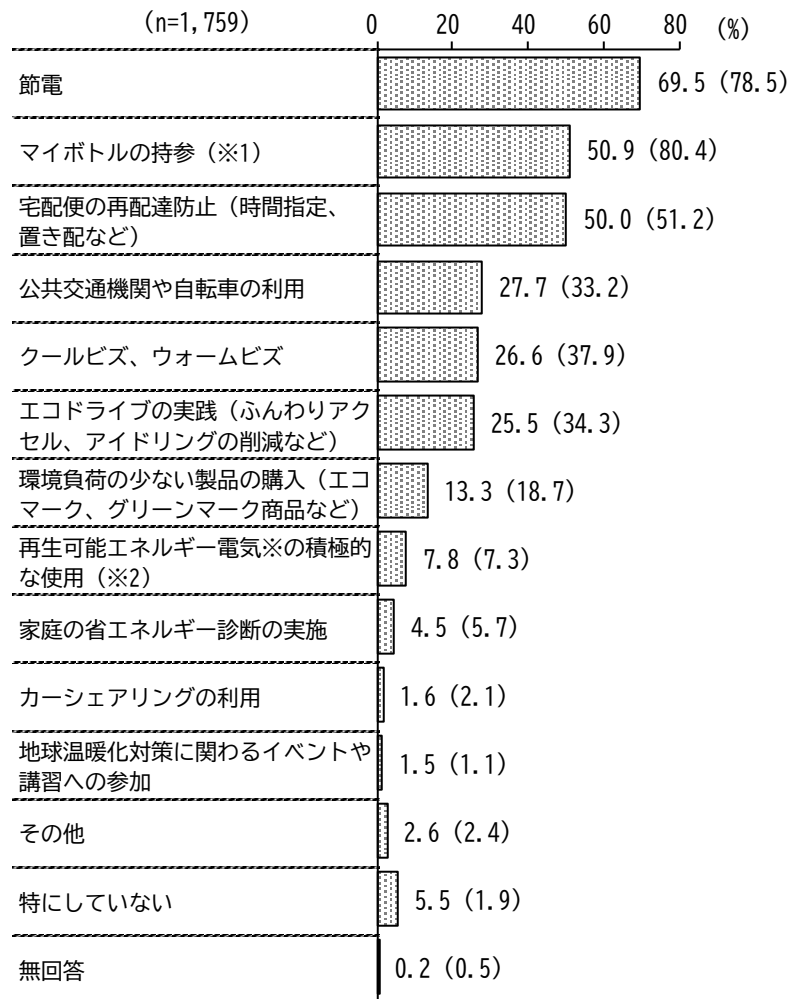


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1) 省エネルギーや環境に配慮した行動の有無

(複数回答:いくつでも)

省エネルギーや環境に配慮した行動について聞いたところ、「節電」(69.5%)が約7割で最も高く、以下、「マイボトルの持参」(50.9%)、「宅配便の再配達防止(時間指定、置き配など)」(50.0%)、「公共交通機関や自転車の利用」(27.7%)が続く。



注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

(※1) 令和5年度調査では「マイボトルやマイバッグの持参」

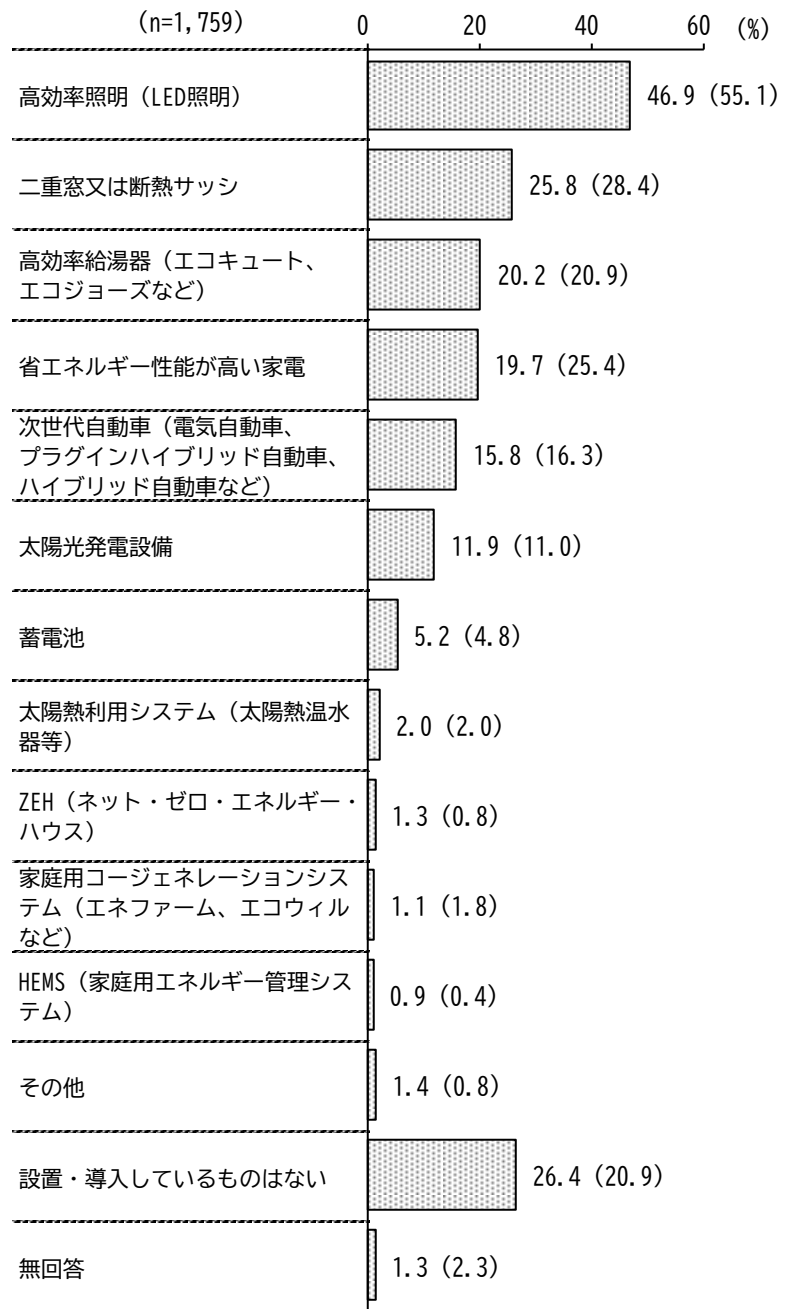
(※2) 令和5年度調査では「再生可能エネルギー電気の積極的な使用(再エネ使用率100%電気等の導入・切替)」

※ 「再生可能エネルギー電気」とは、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーを電源とした電気のことです。

(2)再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の設置・導入の有無

(複数回答:いくつでも)

再生可能エネルギー・省エネルギー設備等の設置・導入について聞いたところ、「高効率照明(LED照明)」(46.9%)が4割台半ばで最も高く、以下、「二重窓又は断熱サッシ」(25.8%)、「高効率給湯器(エコキュート、エコジョーズなど)」(20.2%)、「省エネルギー性能が高い家電」(19.7%)が続く。

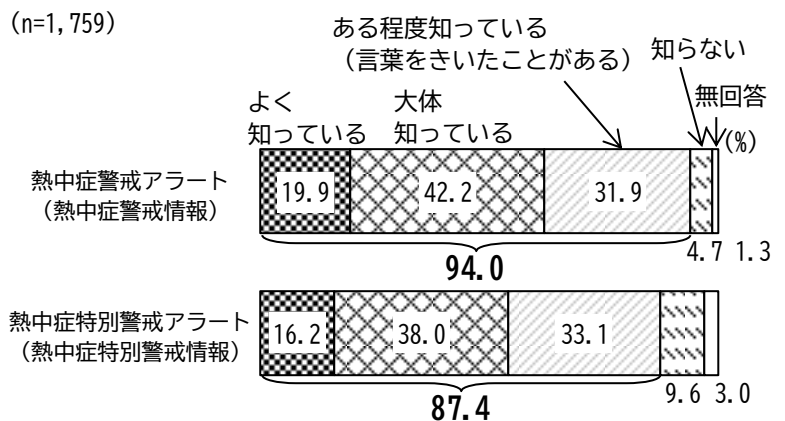


注) () 書きは、令和5年度の調査結果を示している。

(1) 熱中症警戒アラート、熱中症特別警戒アラートの認知度

「熱中症警戒アラート」の認知度については、「よく知っている」(19.9%)、「大体知っている」(42.2%)、「ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)」(31.9%)を合わせた『知っている(計)』(94.0%)が9割台半ばとなっている。

「熱中症特別警戒アラート」の認知度については、「よく知っている」(16.2%)、「大体知っている」(38.0%)、「ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)」(33.1%)を合わせた『知っている(計)』(87.4%)が約9割となっている。

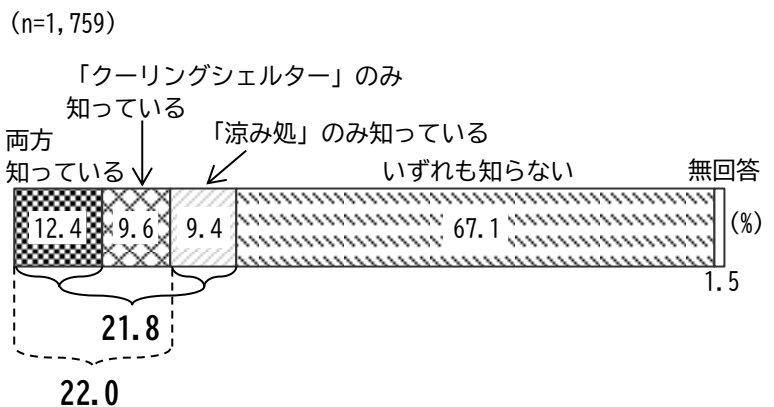


(2) 「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知度

「クーリングシェルター」の認知度については、「両方知っている」(12.4%)と「クーリングシェルターのみ知っている」(9.6%)を合わせた『知っている(計)』(22.0%)が2割を超えている。

「涼み処」の認知度については、「両方知っている」(12.4%)と「涼み処のみ知っている」(9.4%)を合わせた『知っている(計)』(21.8%)が2割を超えている。

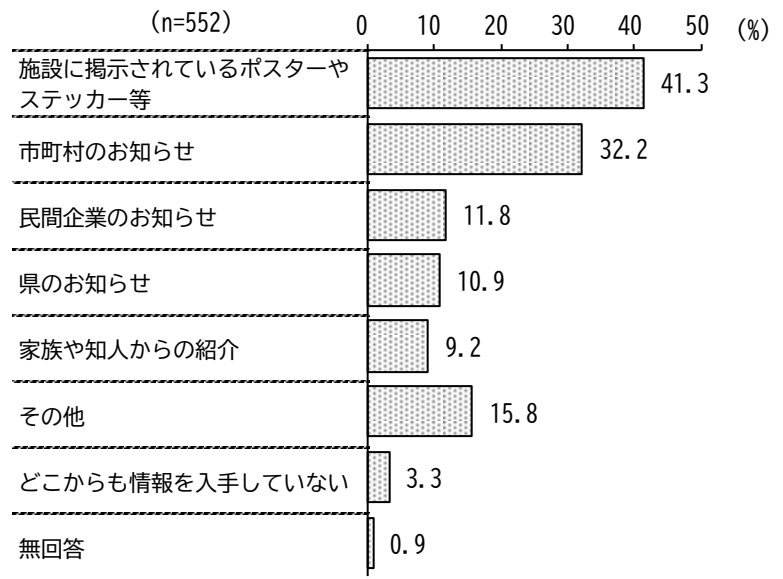
また、「クーリングシェルター」、「涼み処」を「いずれも知らない」(67.1%)は約7割となっている。



(2-1)「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知経路

(複数回答:いくつでも)

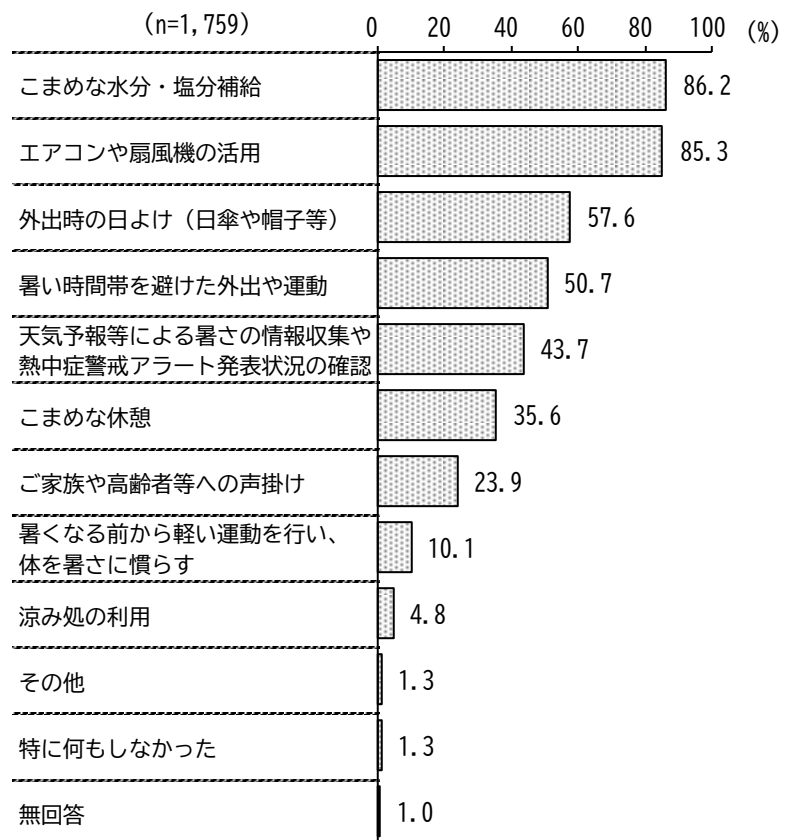
「クーリングシェルター」、「涼み処」の両方もしくは、いずれかを知っていると回答した552人を対象に、認知経路を聞いたところ、「施設に掲示されているポスターやステッカー等」(41.3%)が4割を超えて最も高く、以下、「市町村のお知らせ」(32.2%)、「民間企業のお知らせ」(11.8%)、「県のお知らせ」(10.9%)、「家族や知人からの紹介」(9.2%)、「その他」(15.8%)、「どこからも情報を入手していない」(3.3%)、「無回答」(0.9%)が続く。



(3)この夏に熱中症予防のために行った行動

(複数回答:いくつでも)

この夏に熱中症予防のために行った行動を聞いたところ、「こまめな水分・塩分補給」(86.2%)が8割台半ばで最も高く、以下、「エアコンや扇風機の活用」(85.3%)、「外出時の日よけ(日傘や帽子等)」(57.6%)、「暑い時間帯を避けた外出や運動」(50.7%)、「天気予報等による暑さの情報収集や熱中症警戒アラート発表状況の確認」(43.7%)、「こまめな休憩」(35.6%)、「ご家族や高齢者等への声掛け」(23.9%)、「暑くなる前から軽い運動を行い、体を暑さに慣らす」(10.1%)、「涼み処の利用」(4.8%)、「その他」(1.3%)、「特に何もしなかった」(1.3%)、「無回答」(1.0%)が続く。

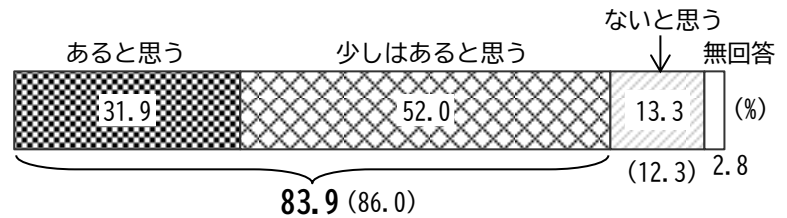


(1) 障害を理由とする差別や偏見の有無

障害を理由とする差別や偏見の有無を聞いたところ、「あると思う」(31.9%)と「少しはあると思う」(52.0%)を合わせた『あると思う(計)』(83.9%)は8割台半ばとなっている。

一方、「ないと思う」(13.3%)は1割を超えている。

(n=1,759)

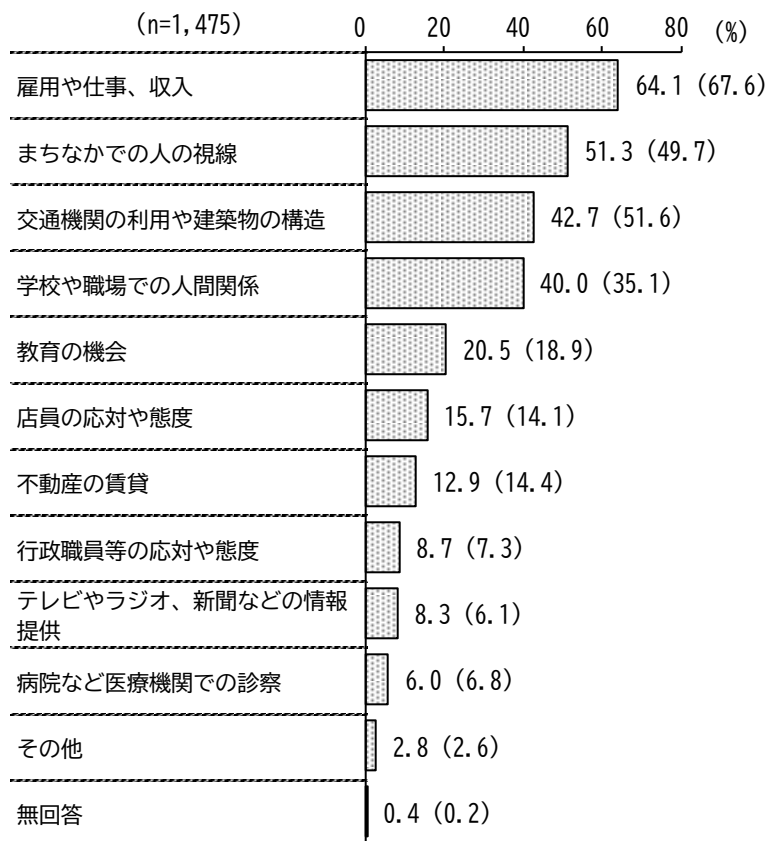


注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1-1) 障害を理由とする差別や偏見がある場面

(複数回答:いくつでも)

障害を理由とする差別や偏見があると回答した1,475人を対象に、その場面を聞いたところ、「雇用や仕事、収入」(64.1%)が6割台半ばで最も高く、以下、「まちなかでの人の視線」(51.3%)、「交通機関の利用や建築物の構造」(42.7%)、「学校や職場での人間関係」(40.0%)が続く。



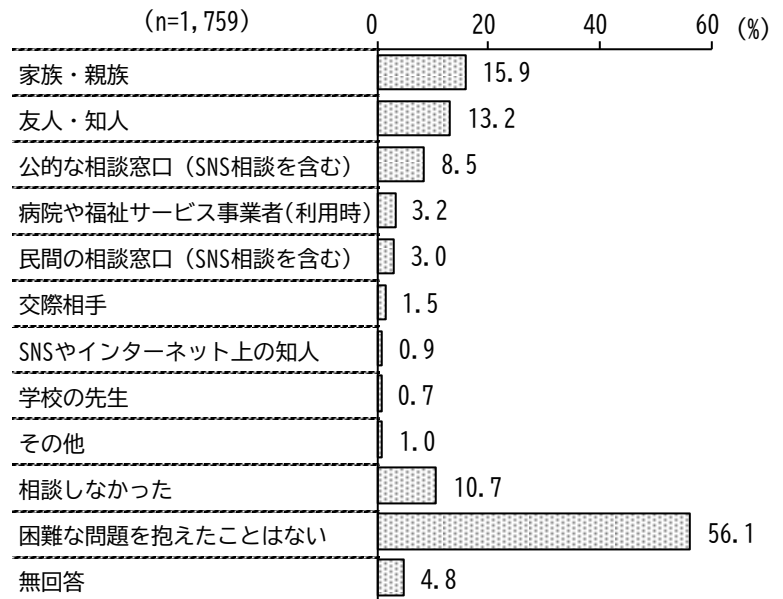
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(1) 困難な問題を抱えた際の相談先

(複数回答:いくつでも)

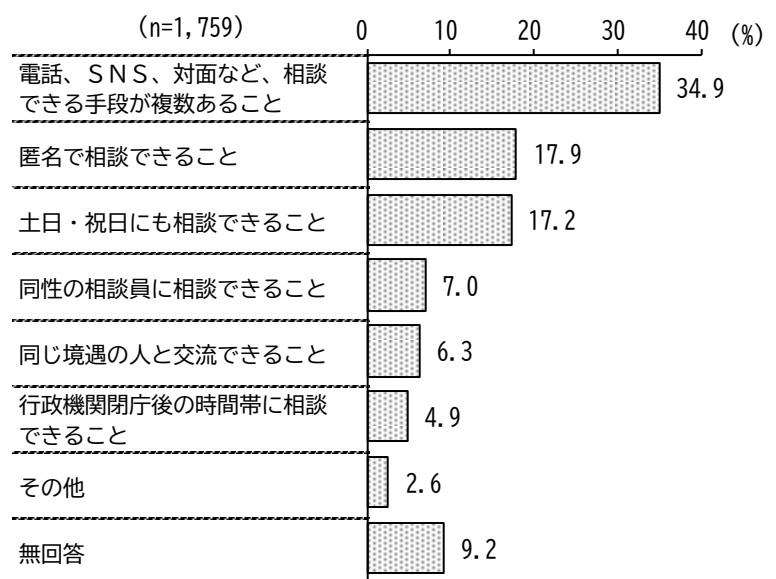
困難な問題を抱えた際の相談先を聞いたところ、「家族・親族」(15.9%)が1割台半ばで最も高く、以下、「友人・知人」(13.2%)、「公的な相談窓口 (SNS相談を含む)」(8.5%)、「病院や福祉サービス事業者 (利用時)」(3.2%)が続く。

また、「困難な問題を抱えたことはない」(56.1%)は5割台半ば、「相談しなかった」(10.7%)は1割となっている。



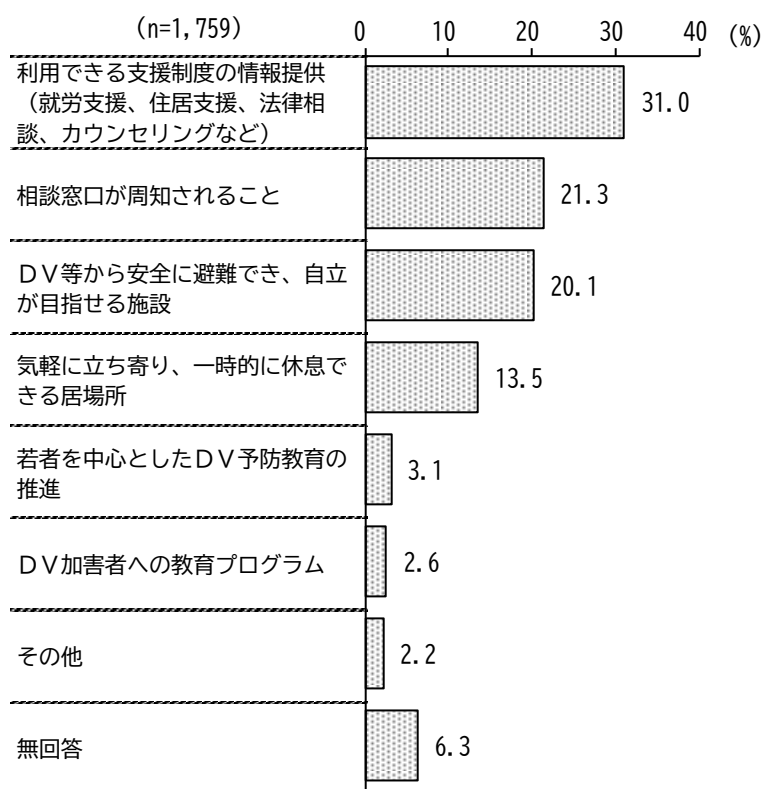
(2) 相談機関に相談しやすくするために必要なこと

相談機関に相談しやすくするために必要なことを聞いたところ、「電話、SNS、対面など、相談できる手段が複数あること」(34.9%)が3割台半ばで最も高く、以下、「匿名で相談できること」(17.9%)、「土日・祝日にも相談できること」(17.2%)、「同性の相談員に相談できること」(7.0%)が続く。



(3) 困難な問題を抱える女性に必要な支援や対策

困難な問題を抱える女性に必要な支援や対策を聞いたところ、「利用できる支援制度の情報提供（就労支援、住居支援、法律相談、カウンセリングなど）」（31.0%）が3割を超えて最も高く、以下、「相談窓口が周知されること」（21.3%）、「DV等から安全に避難でき、自立が目指せる施設」（20.1%）、「気軽に立ち寄り、一時的に休息できる居場所」（13.5%）が続く。



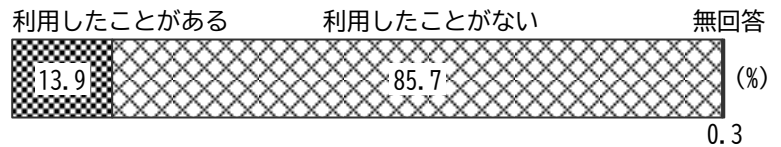
II 県政の主要課題

1 県立中央博物館について

(1) 県立中央博物館の利用経験

県立中央博物館の利用経験について聞いたところ、「利用したことがある」(13.9%)が1割台半ばとなっている。一方、「利用したことがない」(85.7%)が8割台半ばとなっている。

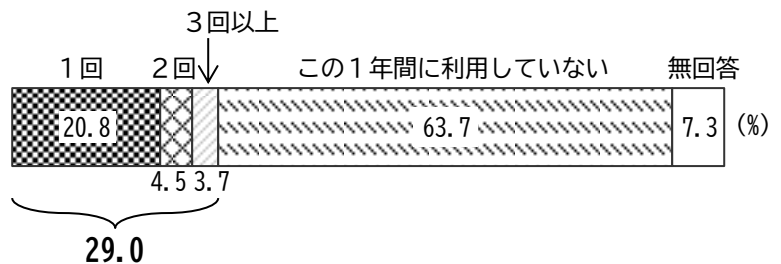
(n=1,759)



(1-1) この1年間の利用回数

県立中央博物館を利用したことがあると回答した245人を対象に、この1年間の利用回数を聞いたところ、「1回」(20.8%)が2割で最も高く、以下、「2回」(4.5%)、「3回以上」(3.7%)が続く。

(n=245)



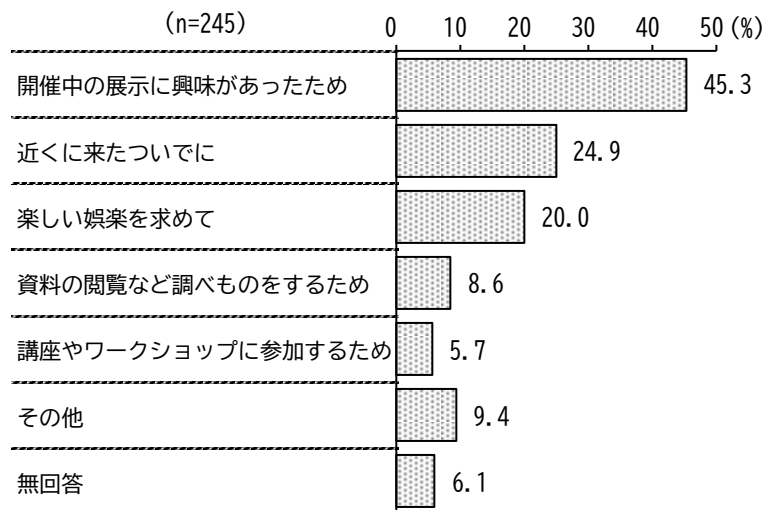
また、「1回」、「2回」、「3回以上」を合わせた『1年間に利用した(計)』(29.0%)が約3割となっている。

一方、「この1年間に利用していない」(63.7%)は6割台半ばとなっている。

(1-2) 来館した目的

(複数回答:いくつでも)

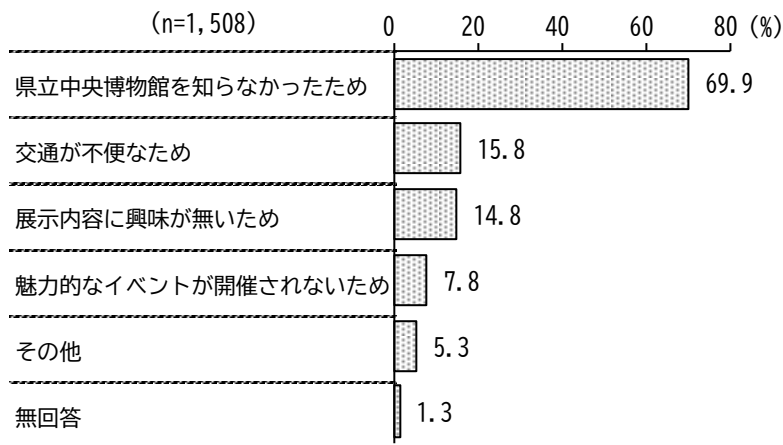
県立中央博物館を利用したことがあると回答した245人を対象に、来館した目的を聞いたところ、「開催中の展示に興味があったため」(45.3%)が4割台半ばで最も高く、以下、「近くに来たついでに」(24.9%)、「楽しい娯楽を求めて」(20.0%)、「資料の閲覧など調べものをするため」(8.6%)が続く。



(1-3) 利用しない理由

(複数回答:いくつでも)

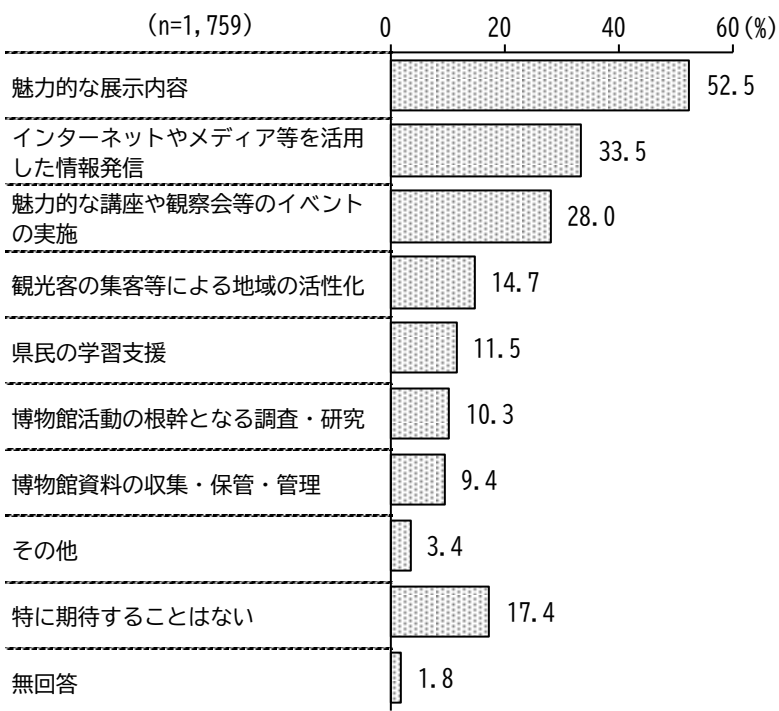
県立中央博物館を利用したことがないと回答した1,508人を対象に、利用しない理由を聞いたところ、「県立中央博物館を知らなかったため」(69.9%)が約7割で最も高く、以下、「交通が不便なため」(15.8%)、「展示内容に興味が無いため」(14.8%)、「魅力的なイベントが開催されないため」(7.8%)が続く。



(2) これからの県立中央博物館に期待すること

(複数回答:いくつでも)

これからの県立中央博物館に期待することについて聞いたところ、「魅力的な展示内容」(52.5%)が5割を超えて最も高く、以下、「インターネットやメディア等を活用した情報発信」(33.5%)、「魅力的な講座や観察会等のイベントの実施」(28.0%)、「観光客の集客等による地域の活性化」(14.7%)が続く。



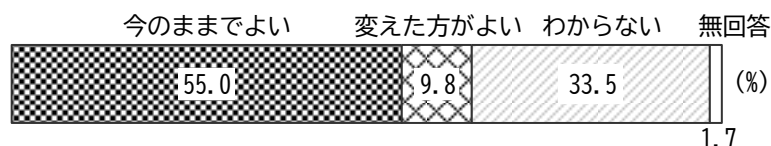
(3) 開館時間、休館日の変更意向

県立中央博物館の開館時間、休館日の変更意向を聞いたところ、「今のままでよい」(55.0%)が5割台半ばとなっている。

一方、「変えた方がよい」(9.8%)は約1割となっている。

また、「わからない」(33.5%)は3割台半ばとなっている。

(n=1,759)



「県立中央博物館について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、215人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県立中央博物館について」の自由回答(抜粋)

- 博物館に行くのは好きなのですが、県立博物館があるのをこのアンケートをするまで知りませんでした。千葉に住んで10年ほど経っていますが、どこかで見聞きもしなかったのもっとSNSなどで発信していった方が良いのではと感じます。今度訪問してみようと思います！
(女性、30代、東葛飾地域)
- 県立の博物館があると知らなかったのでこれから利用を検討したいが、アクセスが悪いようなので改善してほしい。千葉県は歴史的にも興味深い場所なので、千葉県が歩んできた歴史にフィーチャーした展示を見てみたい。もし集客のためにリニューアルを検討しているなら、博物館にカフェがあると良い。閉店してしまったようだが、休憩しつつ展示やイベントとコラボしたメニューがあると訪れる際の楽しみが増えると思う。
(女性、40代、東葛飾地域)
- SNSなどでの情報発信。(実際そこに行った人のレポートなど載せたり)館内に、一息つける喫茶店があるとかなり魅力的です。
(女性、40代、葛南地域)
- 幼児～小学低学年には難しく、すこしだけ展示スペースがあればもっと良いと思いました。戸田市立博物館には、パズル・ぬり絵・糸車体験などができるスペースがあり、小さな子でも楽しそうでした。観ることも大事ですが、触ったり、経験したりできることがあればありがたいです。
(女性、40代、千葉地域)
- 東葛飾地域住まいの人は、上野の方が出やすいので、国立科学博物館に行ってしまう。古代生物や恐竜の展示があると、子供達が喜ぶため、少し足を延ばして千葉まで行ってみようかなと思うと思います。
(女性、40代、東葛飾地域)
- ワークショップ(県民が気軽に利用できる)などを開いて交流の場を広げたい。
(女性、20代、葛南地域)
- ミュージアムショップの更なる充実。千葉県ならでの商品。
(男性、65～69歳、印旛地域)
- 開館時間については、千葉市美術館のように企画やシーズンにより、ナイトタイムがあっても良いかと思います。ワークショップなどについては、自分が参加したいと思っても、大体が子供達優先のアプローチなので、大人1人で参加申し込みしづらい気持ちになり、結局申し込みもしません。大人だけでも参加に躊躇しない募集宣伝をしてもらいたいです。
(女性、50代、千葉地域)
- 休館日(月曜日)を変動性にして月曜日でも開館する日をつくる。
(男性、70～74歳、東葛飾地域)

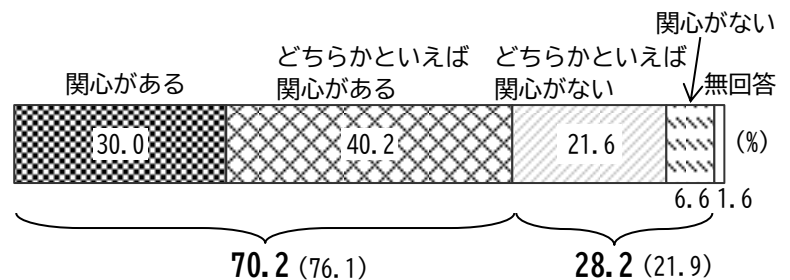
2 食育について

(1) 食育への関心度

食育に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(30.0%)と「どちらかといえば関心がある」(40.2%)を合わせた『関心がある(計)』(70.2%)が7割となっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」(21.6%)と「関心がない」(6.6%)を合わせた『関心がない(計)』(28.2%)が約3割となっている。

(n=1,759)



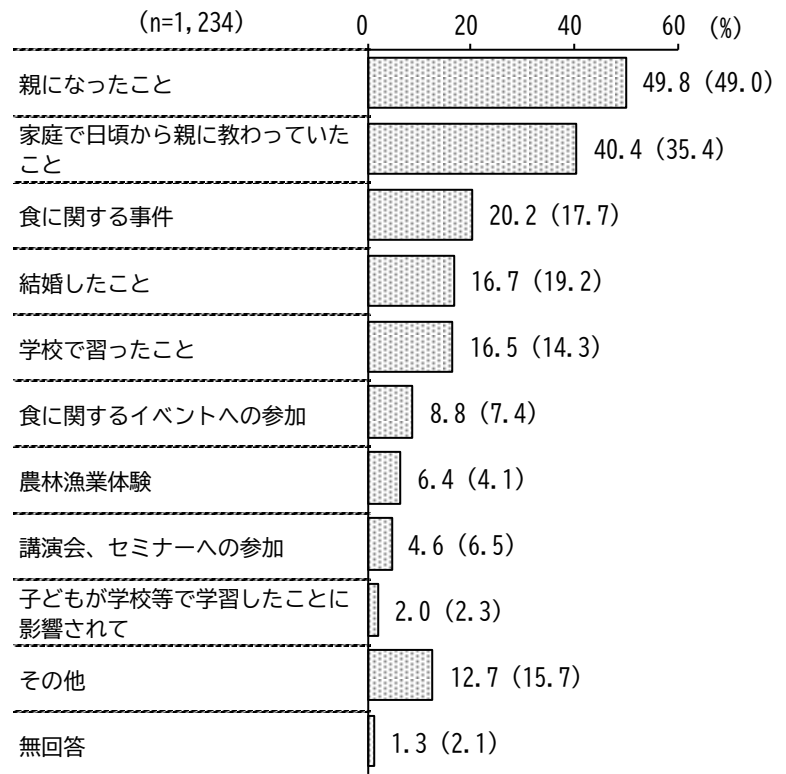
注) () 書きは、令和3年度の調査結果を示している。

(1-1) 食育に関心を持ったきっかけ

(複数回答:いくつでも)

食育に関心があると回答した1,234人を対象に、関心を持ったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」(49.8%)が約5割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」(40.4%)、「食に関する事件」(20.2%)、「結婚したこと」(16.7%)、「学校で習ったこと」(16.5%)が続く。

(n=1,234)

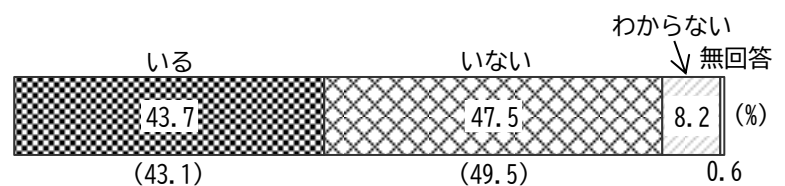


注) () 書きは、令和3年度の調査結果を示している。

(2) 農林漁業体験の参加状況

自分又は自分の家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある人がいるか聞いたところ、「いる」(43.7%)が4割台半ばとなっている。一方、「いない」(47.5%)が約5割となっている。

(n=1,759)



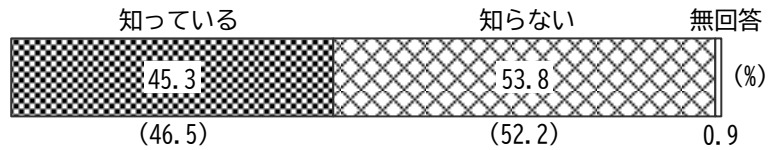
注) () 書きは、令和3年度の調査結果を示している。

(3)食に関する文化の認知状況

地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っているか聞いたところ、「知っている」（45.3%）が4割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（53.8%）が5割台半ばとなっている。

(n=1,759)



注) () 書きは、令和3年度の調査結果を示している。

(3-1)食に関する文化の伝承

地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると回答した796人を対象に、地域や次世代（子どもやお孫さん含む）に対して伝えているか聞いたところ、「伝えている」（63.9%）が6割台半ばとなっている。

一方、「伝えていない」（35.9%）が3割台半ばとなっている。

(n=796)



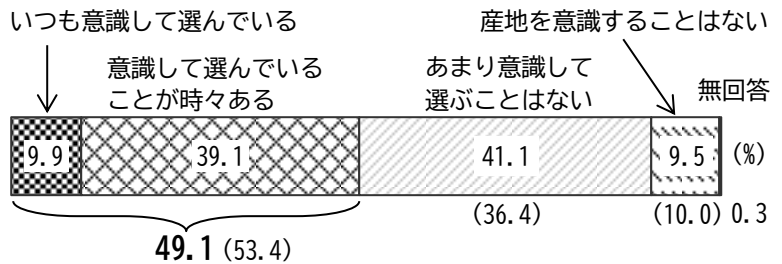
注) () 書きは、令和3年度の調査結果を示している。

(4)農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無

農林水産物や食品購入時における千葉県産の意識の有無を聞いたところ、「いつも意識して選んでいる」（9.9%）と「意識して選んでいることが時々ある」（39.1%）を合わせた『意識して選んでいる（計）』（49.1%）は約5割となっている。

一方、「あまり意識して選ぶことはない」（41.1%）は4割を超え、「産地を意識することはない」（9.5%）は約1割となっている。

(n=1,759)



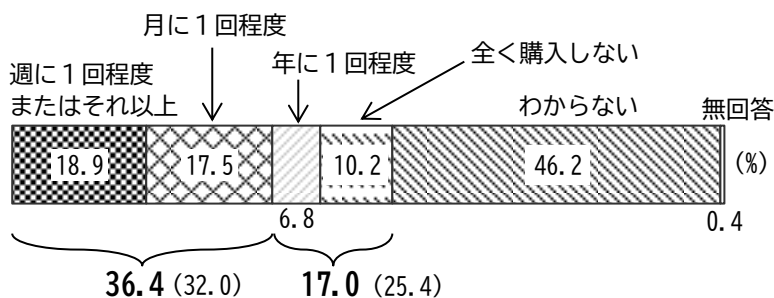
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(5)有機農業により生産される農産物の購入頻度

有機農業により生産される農産物の購入頻度を聞いたところ、「週に1回程度またはそれ以上」(18.9%)と「月に1回程度」(17.5%)を合わせた『購入する(計)』(36.4%)は3割台半ばとなっている。

一方、「年に1回程度」(6.8%)と「全く購入しない」(10.2%)を合わせた『購入しない(計)』(17.0%)は約2割となっている。

(n=1,759)



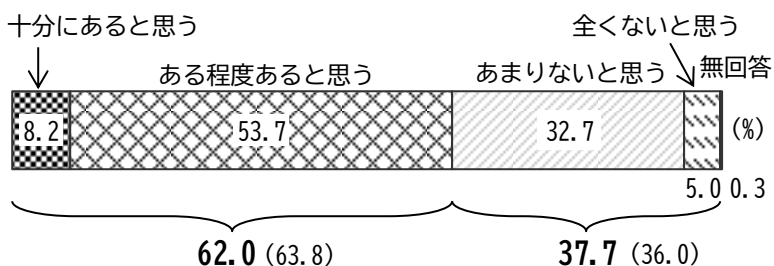
注) () 書きは、令和6年度の調査結果を示している。

(6)食品の安全性に関する基礎的な知識の有無

「食品の安全性に関する基礎的な知識」の有無を聞いたところ、「十分にあると思う」(8.2%)と「ある程度あると思う」(53.7%)を合わせた『あると思う(計)』(62.0%)は6割を超えている。

一方、「あまりないと思う」(32.7%)と「全くないと思う」(5.0%)を合わせた『ないと思う(計)』(37.7%)が約4割となっている。

(n=1,759)



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

「食育について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、174人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

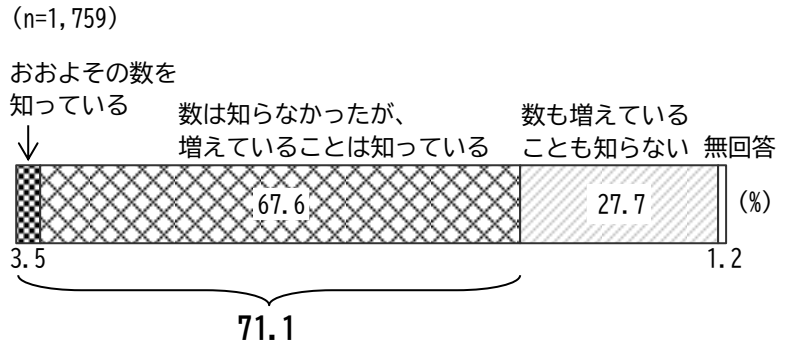
■「食育について」の自由回答(抜粋)

- 学校給食には、なるべく県産品を使うようにしたり、さんが焼き（なめろうは衛生上難しいので）など、郷土料理は定期的にメニューに加えるようにしていただければと思います。
(男性、40代、東葛飾地域)
- 地産地消（千産千消）は千葉県でしか使えない言葉と思っているので食育とうまく絡めていけたらと思います。
(男性、50代、千葉地域)
- 必要に迫られて自炊していますが、千葉県産の素材を使って安くて簡単にできる料理があれば挑戦してみたいです。
(男性、60～64歳、千葉地域)
- 教育（校外学習など）の中で農林漁業に関する体験がもっとできると良いと思います。学年やクラスで野菜を育てることや米を植える等体験できると意識も変わると思います。
(女性、40代、東葛飾地域)
- 農林漁業の体験活動を行政主体でもっと行えたら、人々の参加も増え、食育推進に役立つと思う。
(男性、65～69歳、葛南地域)
- 地域に伝わる伝統的な食べ物や文化など、核家族が進む中で、きちんと子供たちに伝えていく機会を増やせる場を多く持たせたい。
(男性、65～69歳、千葉地域)
- 伝統である花寿司の作り方を教えてくれたのは、義理のお母さんでした。細いのり巻き（食紅で桜色に色付けていた）をたくさん作り、組み合わせ、きれいなお花の切り口のお寿司に感動しました。いつか子供にも伝えていきたいです。
(女性、65～69歳、葛南地域)
- 祖父母から教えてもらうことが今の時代ない。途絶えてしまう。知りたいし、伝えたい。次の世代に伝えたい。生きていくのに必要な知恵や生きるすべだと思うから。（農業、林業、漁業、伝統、伝統工芸（うちわ）、料理もすべてが）。
(女性、40代、千葉地域)
- 農薬、添加物使用と健康の問題など小さい時から知っておく必要があるので、学校教育でも触れてほしい。また、情報を発信してほしい。
(女性、75歳以上、葛南地域)
- 日本企業が海外のものを輸入して販売する際に分かりやすくしてほしい。あたかも日本産であるみたいに装うのをやめてほしい。
(女性、30代、千葉地域)
- 野菜など産地が書いてあるので国産を選んでいる。農薬散布の時期がいつなのか、収穫近くなのかは表示されていないのが不安である。安全性の表示をわかりやすくしてほしいと思う。
(女性、65～69歳、海匝地域)
- 薬を使用しない野菜等は安全だとは認識しているのですが、虫がついていたり虫が食べて穴があいている物はどうしても買うのに抵抗があります。
(女性、70～74歳、印旛地域)
- 有機農業により生産された農産品は、普段行くスーパーなどで見かけることは極めて少なく、積極的に選ぶことはできません。有機農業がより身近な存在になると良いです。
(女性、20代、葛南地域)

3 不登校児童生徒支援について

(1) 不登校児童生徒数増加の認知度

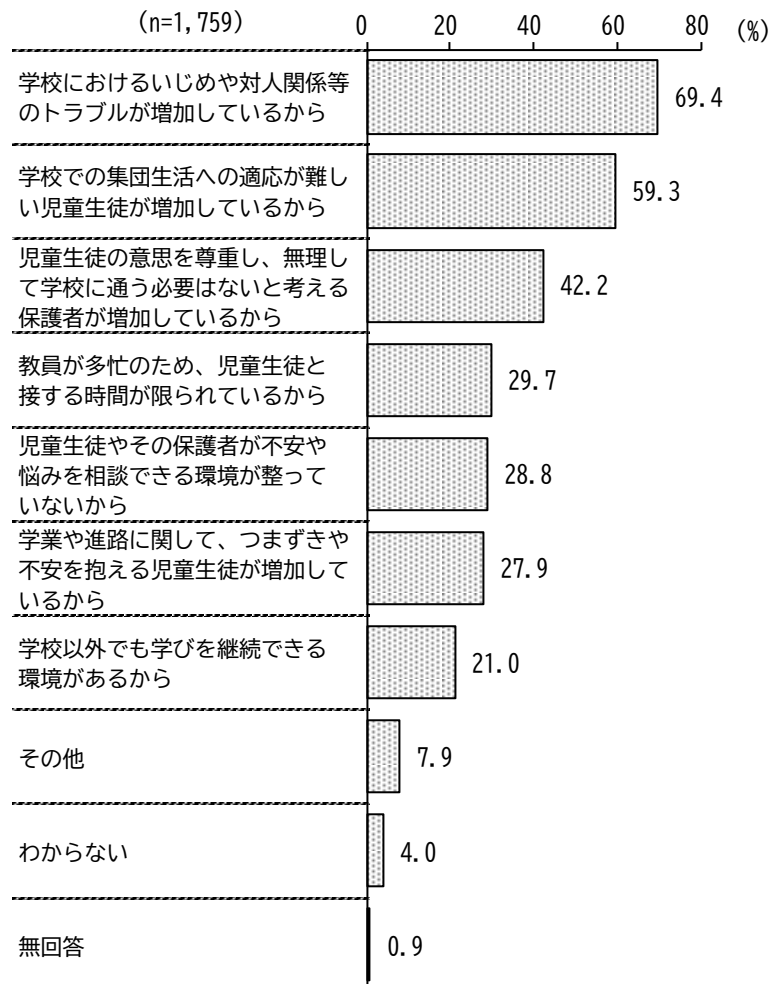
不登校児童生徒数の増加の認知度を聞いたところ、「おおよその数を知っている」(3.5%)と「数は知らなかったが、増えていることは知っている」(67.6%)を合わせた『知っている(計)』(71.1%)が7割を超えている。一方、「数も増えていることも知らない」(27.7%)は約3割となっている。



(2) 不登校児童生徒数の増加理由

(複数回答:いくつでも)

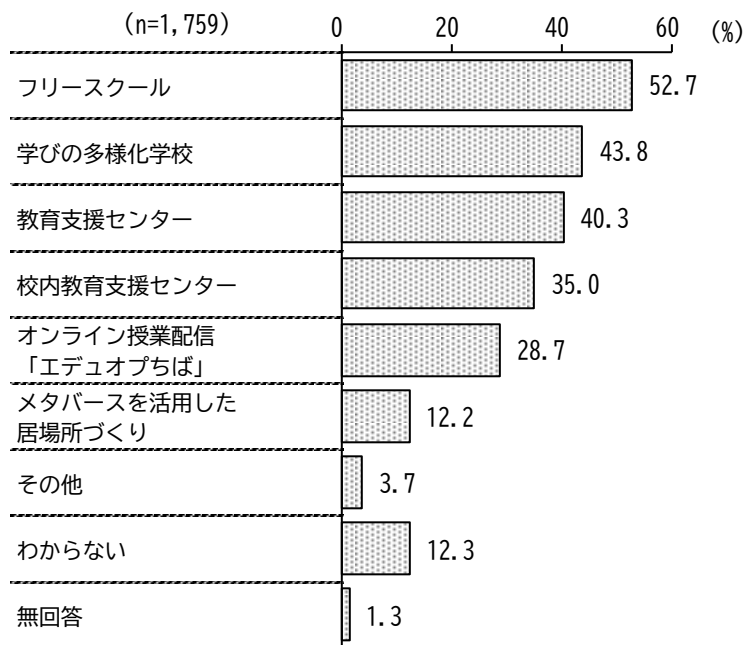
不登校児童生徒数の増加理由を聞いたところ、「学校におけるいじめや対人関係等のトラブルが増加しているから」(69.4%)が約7割で最も高く、以下、「学校での集団生活への適応が難しい児童生徒が増加しているから」(59.3%)、「児童生徒の意思を尊重し、無理して学校に通う必要はないと考える保護者が増加しているから」(42.2%)、「教員が多忙のため、児童生徒と接する時間が限られているから」(29.7%)、「児童生徒やその保護者が不安や悩みを相談できる環境が整っていないから」(28.8%)、「学業や進路に関して、つまずきや不安を抱える児童生徒が増加しているから」(27.9%)、「学校以外でも学びを継続できる環境があるから」(21.0%)、「その他」(7.9%)、「わからない」(4.0%)、「無回答」(0.9%)が続く。



(3)不登校児童生徒への支援で有効な取組

(複数回答:いくつでも)

不登校児童生徒への支援で有効な取組を聞いたところ、「フリースクール」(52.7%)が5割を超えて最も高く、以下、「学びの多様化学校」(43.8%)、「教育支援センター」(40.3%)、「校内教育支援センター」(35.0%)が続く。



「不登校児童生徒支援について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、231人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「不登校児童生徒支援について」の自由回答(抜粋)

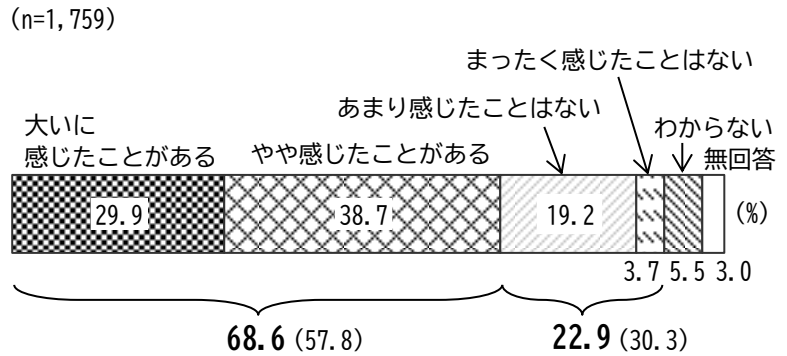
- 不登校の子どもたちの中には、行きたくない理由が明確にない子もいるだろうし、うまく言語化出来ずに苦しんでいる子もいると思います。自分もそうでした。学校も親も本人が動けるようになるまで待つてあげてほしい。(女性、40代、葛南地域)
- 不登校児童本人も自身で色々と考えています。軽いアドバイスなら良いですが過剰に干渉するとプレッシャーになります。本人の言葉をうけとめてあげて、少しずつ肯定してあげましょう。(男性、20代、安房地域)
- いろんなタイプの支援があるのはいいことだと思います。時代が変わり、嫌なら行かなくてもいいんだよ。という時代になった。だからこそ不登校が増えているんだと思う。増えている数字に悲観するのではなく、その子個人が、辛くない形で義務教育を終えられればいいのではないか。(女性、30代、千葉地域)
- 不登校の生徒を支援する事に重きを置くのでは無く、不登校の生徒を無くす事に試行錯誤した方が良く思う。不登校を減らすには何が重要なのかは、不登校を経験した人達が、答えを持っているように思う。不登校になった事の無い大人が、いくら考えても答えはなかなか見つからないと思う。(男性、60～64歳、千葉地域)
- 学校は学問だけを学ぶ場ではなく、対人関係も学ぶ必要がある。クラスに1人の先生では難しい事も多いので、教員の人数を増やして、子供を見守り、トラブルに適切に対応できるようにしてほしい。(女性、30代、千葉地域)
- 学校に求められていることが多すぎる。集団生活だけでなく、掃除や配膳やルールを守ることなど、本来家庭で教えても良い内容である。健康に安全に生きていくすべを教える場所とする必要があるなら、勉強以外をサポートする職員を増やすべきである。(女性、40代、東葛飾地域)
- 現在まさに小2の子どもが不登校に近い状況です。低学年だと親が仕事を休まざるを得ず、経済的に厳しい状況です。フリースクールの費用も高額で簡単に通わせることはできません。(男性、30代、葛南地域)
- 不登校問題は子供も辛い、親もとても辛い。先が見えない不安やなかなか人に相談できなかつたり、自分だけで抱え込んでしまう。LINEなどで気軽に専門家に悩みの相談やアドバイスカをしてもらえると、少し楽になるのではないかと。(女性、40代、葛南地域)
- もちろん子供の性質もあると思うが、周りの環境や親との関係性も大きく関わると思うので両親のカウンセリングやセミナーなどの場や親が仕事を罪悪感なく休めたりする制度も作ってあげて欲しい。あと休業保障とかも。(女性、60～64歳、東葛飾地域)
- 子育ては子どもが中心であることを大人が理解することが大切かと思う。子どもにも多様な子がいる。まず、親の愛情を子どもにふりそそぎ、子どもが親から愛されていると感じること。そのためには1才～小学校入学前までの育児が重要と思う。(男性、70～74歳、印旛地域)

4 サイバー空間の安全対策について

(1) ネット犯罪への危機感

ネット犯罪への危機感について、「大いに感じたことがある」(29.9%)と「やや感じたことがある」(38.7%)を合わせた『感じたことがある(計)』(68.6%)が約7割となっている。

一方、「あまり感じたことはない」(19.2%)と「まったく感じたことはない」(3.7%)を合わせた『感じたことはない(計)』(22.9%)が2割を超えている。

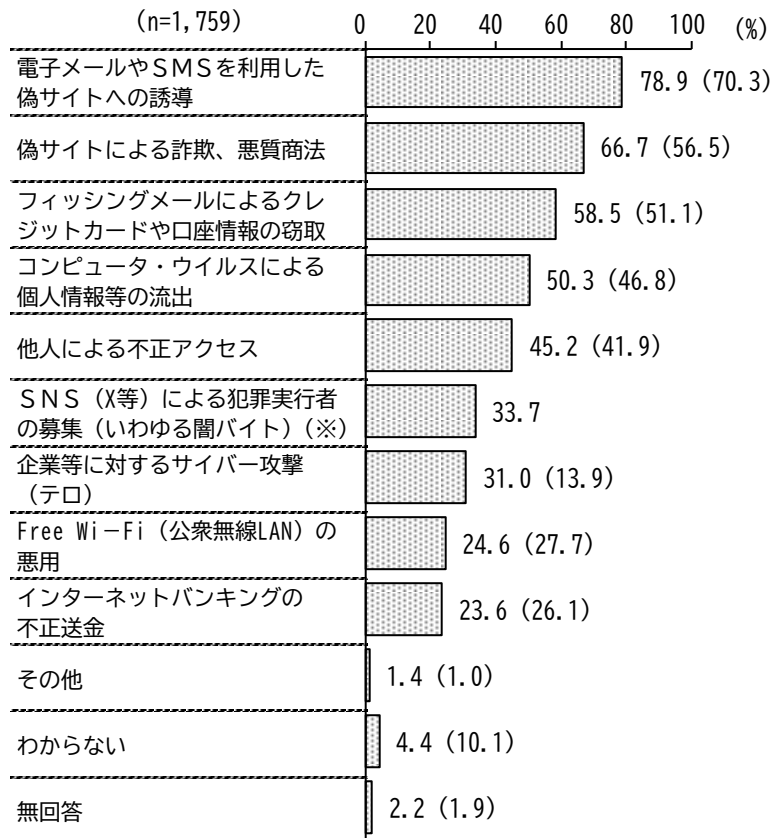


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(2) 危険性や不安を感じるネット犯罪

(複数回答:いくつでも)

危険性や不安を感じるネット犯罪について聞いたところ、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」(78.9%)が約8割で最も高く、以下、「偽サイトによる詐欺、悪質商法」(66.7%)、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」(58.5%)、「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」(50.3%)、「他人による不正アクセス」(45.2%)、「SNS(X等)による犯罪実行者の募集(いわゆる闇バイト)(※)」(33.7%)、「企業等に対するサイバー攻撃(テロ)」(31.0%)、「Free Wi-Fi(公衆無線LAN)の悪用」(24.6%)、「インターネットバンキングの不正送金」(23.6%)、「その他」(1.4%)、「わからない」(4.4%)、「無回答」(2.2%)が続く。



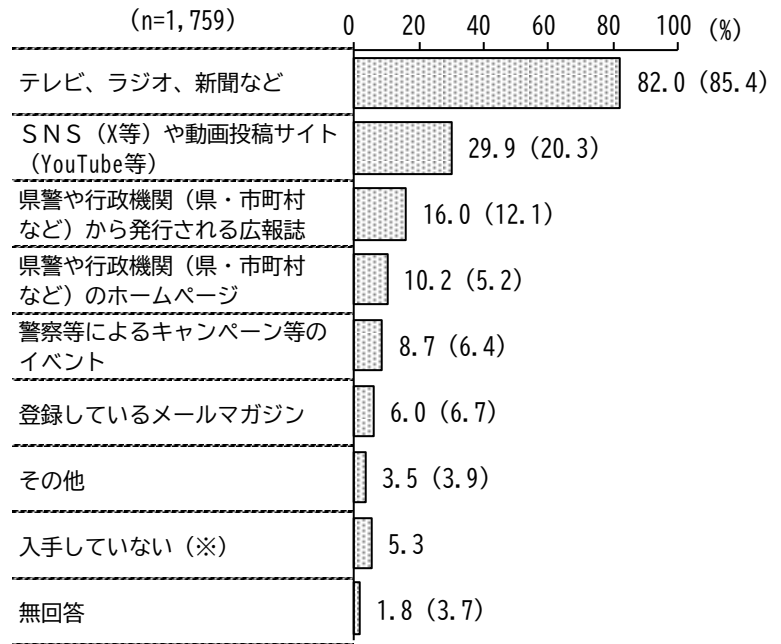
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(※) 今回調査からの新規項目

(3) ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法

(複数回答:いくつでも)

ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法を聞いたところ、「テレビ、ラジオ、新聞など」(82.0%)が8割を超えて最も高く、以下、「SNS(X等)や動画投稿サイト(YouTube等)」(29.9%)、「県警や行政機関(県・市町村など)から発行される広報誌」(16.0%)、「県警や行政機関(県・市町村など)のホームページ」(10.2%)が続く。



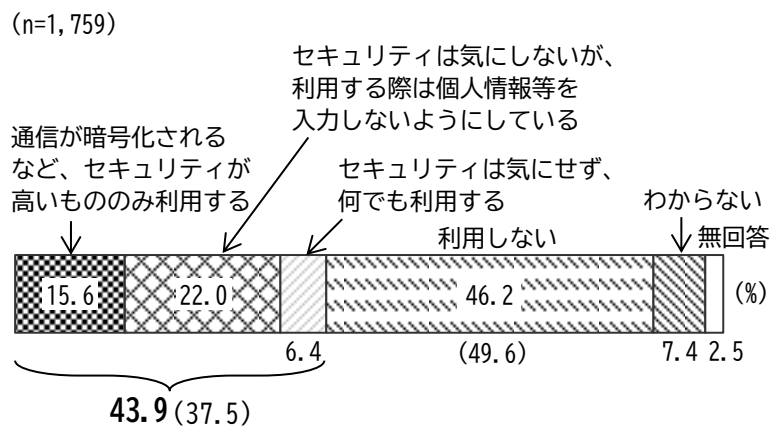
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(※) 今回調査からの新規項目

(4) Free Wi-Fi(公衆無線LAN)の利用状況

Free Wi-Fi(公衆無線LAN)の利用状況について聞いたところ、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」(15.6%)と「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」(22.0%)、「セキュリティは気にせず、何でも利用する」(6.4%)を合わせた『利用する(計)』(43.9%)が4割台半ばとなっている。

一方、「利用しない」(46.2%)は4割台半ばとなっている。

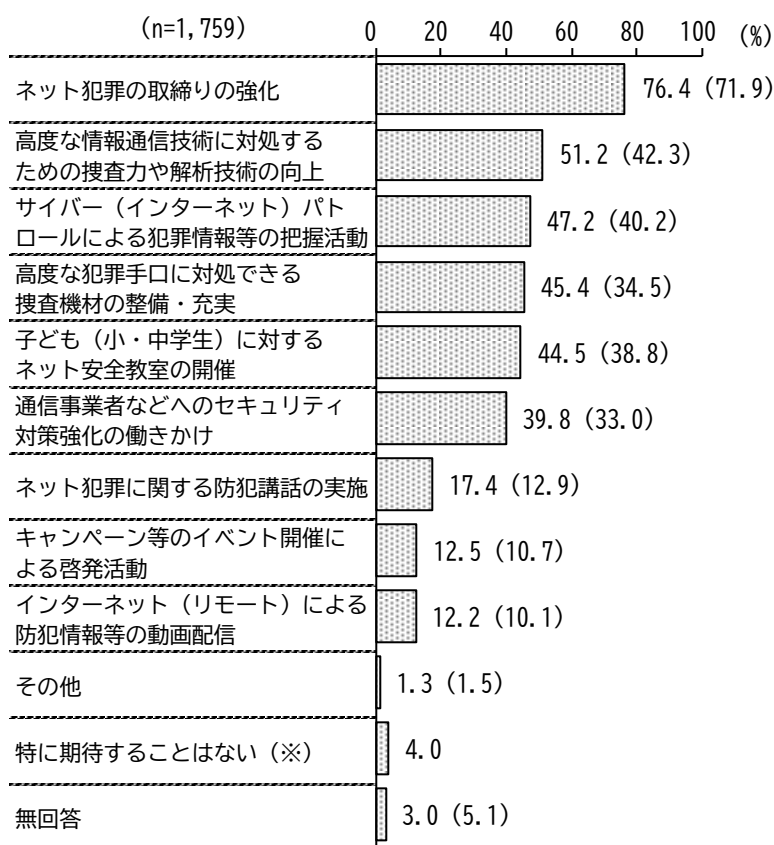


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(5)インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動

(複数回答:いくつでも)

インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動を聞いたところ、「ネット犯罪の取締りの強化」(76.4%)が7割台半ばで最も高く、以下、「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」(51.2%)、「サイバー(インターネット)パトロールによる犯罪情報等の把握活動」(47.2%)、「高度な犯罪手口に対処できる捜査機材の整備・充実」(45.4%)が続く。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(※) 今回調査からの新規項目

「サイバー空間の安全対策について」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、102人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「サイバー空間の安全対策について」の自由回答(抜粋)

- ネットは匿名空間のためとんでもない誹謗中傷を目にすることがある、これについて積極的に取り締まりを行ってほしい。性的な広告など児童や子供に有害であるものをネット事業者と協力するなどして取り締まってほしい。詐欺メールや偽サイトなどが野放しになっている、こちらも規制を強化してほしい。(女性、40代、葛南地域)
- インターネットに関しては子供よりもシニア世代の親の方がネットリテラシーが低くヒヤッとさせられた事が多い。シニア向けに分かりやすい講座やパンフレットの配布などをして注意喚起をしてほしい。(女性、50代、東葛飾地域)
- インターネットは、できれば触りたくないのですが、よく分からないまま操作してしまい、ネット犯罪に関わることになるのが怖いです。これだけはやっちゃだめという情報がほしいです。(女性、75歳以上、安房地域)
- こんな最近の犯罪がありましたよ(具体的なこと)、と市のLINEで流す。市のHPに載せる。学校や企業へお知らせのメールをする。知らないと防げません。(女性、40代、千葉地域)
- Free Wi-Fiではパスワードを抜き取ることができるなど、どのような犯罪が可能であるかをユーザーに周知させる必要がある。(男性、30代、東葛飾地域)
- 市中のFree Wi-Fiは悪用(クレジット情報の詐取)の恐れがあり、また、ネット空間ではもっともらしいメールが届くなど、サイバー空間は決して安全でないと広報を徹底していただきたい。県の仕事ではないが、罰則の重罪化(罰金10億円以下とか)を安易に犯罪に手を染めないよう重くしてほしいです。(男性、65~69歳、葛南地域)
- 小学校の低学年のうちから本格的なネットリテラシーを授業の一環として取り入れることが大切だと思う。(男性、18~19歳、葛南地域)
- 大人の被害より子供の被害を防いでほしいので、実例を交えた講話や教室を学校等で実施してほしい。できれば希望者は保護者参加もしたい。自分が子供であった頃にはなかった犯罪なので、子供へ注意することに欠如があったら…と不安である。交通安全教室のように、親が分かっていることではないので、親子で、家族で、意識をしていきたい。その機会をいただけるとありがたいです。(女性、40代、千葉地域)
- 未成年の使用について保護者任せではなく、行政機関で制限を検討すべき。特に22時以降の利用を停止するだけで、かなり健全になると思われる。(男性、30代、千葉地域)
- 通信企業が責任持って対処するようにならないと、個人のセキュリティでは限界がある。(男性、60~64歳、千葉地域)

III 自由回答

自由回答(抜粋)

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、247人から延べ320件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○生活、障害に困っている人、お年寄りなどに手厚い支援を。弱い部分に目をしっかり向けてくれるような県政を望みます。(女性、75歳以上、葛南地域)

■道路を整備する

○他県に比べてとにかく狭い道、混雑する道が多すぎる。歩道があるにはあるが、すれ違い困難な箇所も多い。子供の通学の安全のためにも道路の改善を求む。(男性、30代、東葛飾地域)

■公共交通網(バス・鉄道)を整備する

○公共交通機関の充実を図ってほしい。バスの減便、値上げが激しく、電車が周辺を走っていない。モノレールの延長を実施し、環状線の完成を望みます。(男性、50代、千葉地域)

■県政の情報発信について

○県政に関する情報に接する機会がほとんど無いので情報発信を増やしてほしい。(男性、75歳以上、東葛飾地域)

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○子供への支援は重重、賜りたく願います。(男性、40代、海匝地域)

■学校教育を充実する

○県立高校の老朽化、特にトイレを早急に対応してほしいと思います。(女性、40代、東葛飾地域)

■観光を振興する

○千葉県は観光スポットが沢山あって魅力的な県だと思います。どこからでも行きやすいように、交通の便が良くなると更に良いと思います。(女性、20代、居住地域無回答)

■農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する

○千葉は食料生産県で食材豊富ですが、スイカ、落花生など一部を除き知名度は低く思います。千葉県食材のブランド化を推進してほしいです。価値が上がれば農家も助かる！(男性、40代、葛南地域)

「世論調査」に関する意見や提案を自由に記述していただいたところ、89人から94件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「県への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

一 《世論調査自体への意見》

- 今回調査対象に選ばれたことで、県政についての学びを深めるきっかけとなりました。
(女性、20代、葛南地域)
- このような調査が長年実施されていることを知りませんでした。県政に携わる方々の努力があってこそですので、もっとアピールしていった方が良いと思います。
(女性、40代、葛南地域)
- 世論調査結果など公表、回答者には結果など教えていただけるとアンケート回答のし甲斐があります。
(男性、50代、千葉地域)
- 調査票を書いた人にフィードバックがほしい。ネットに出されていても気付かない。どんな意見があって、どんな変化を促したのか知りたいです。
(女性、30代、長生地域)
- この調査は、何のために行っているのか、設問の内容もこんなことを聞いてどうするのか疑問が残ります。また調査をどのように生かしているのか、この調査で千葉県がどう良くなるのか。
(男性、65～69歳、印旛地域)

一 《調査手法や謝礼への意見》

- オンラインで申請しようかと思ったが、メールアドレス登録が必要で、セキュリティの面から怖くてできなかった。
(女性、30代、葛南地域)
- アンケートの「その他」の自由記述欄が小さく、長い文が入力しにくかったので、今後改善してもらえると助かります。
(男性、30代、千葉地域)
- 調査とは関係ないけれど、一緒に入っていたボールペンが可愛いです。ボールペンが入っていなかったらアンケートを出さなかったかも。仕事から帰って忙しいし、アンケート長すぎです。
(女性、60～64歳、葛南地域)
- 回答者が記念品やポイントをもらえると回答しやすくなると思う。
(男性、50代、千葉地域)
- ペンは不要です。回答しない人にも当たるのなら、他に予算を使いましょう。ネットで回答できる仕組みにしていることはとても良かったです。
(女性、40代、東葛飾地域)

一 《設問への意見》

- 後期高齢者や介護制度に対する質問がなかった。とても大事なテーマだと思うので扱ってほしい。
(女性、40代、千葉地域)
- 何を書いていいのかわからない所がある。
(男性、70～74歳、東葛飾地域)
- 質問が多すぎる。
(女性、75歳以上、印旛地域)
- 質問自体が的を得ているかどうか、もう一度考慮した方が良いかもしれませんね。
(女性、70～74歳、印旛地域)